

地震対策 わが家を安全な場所にしましょう

家の中の安全対策

家具を安全に配置する

- ◆できるだけ人の出入りが少ない部屋に家具をまとめる。寝室に家具を置く場合は、体の上に倒れてこないように配置する。



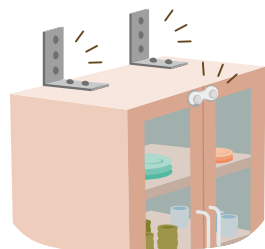
通路や出入り口に荷物を置かない

- ◆いざというときの避難路を確保するために、通路や出入り口には家具や割れやすいものなどを置かないようにする。



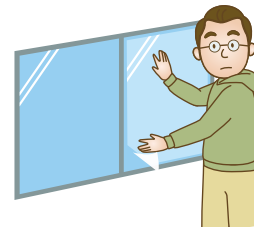
家具の転倒や落下を防止する

- ◆家具と壁や柱の間に空間をつくらない。またL字型金具や、家具の転倒防止粘着シート、扉の開閉止め金具などを利用して転倒や落下を防ぐ。



窓ガラスなどの飛散を防止する

- ◆窓や食器棚などに使われているガラスに飛散防止フィルムをはる。



住宅の耐震診断について

平成7年の阪神・淡路大震災では、倒壊した建物や家具に押しつぶされて亡くなった人が、犠牲者全体の約8割を占め、壊れた建物の多くが昭和56年以前の「旧耐震基準」で建てられた古い木造住宅でした。

耐震診断は、こうした昭和56年以前の旧耐震基準で建てられた建物について、大地震に対してどの程度強度（耐震性）があるかを調べる診断作業のことです。

インターネットで
今すぐ診断

「誰でもできるわが家の耐震診断」

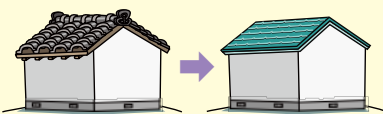
（一財）日本建築防災協会

<http://www.kenchiku-bosai.or.jp>

住宅の耐震補強について

屋根の耐震化

軽い材料の屋根に
替えることで、耐震性 UP!



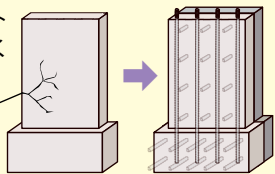
耐震化については、耐力壁などの上部構造各部の補強全体で考えましょう。

建物の基礎を補強

基礎の補強で建物の性能 UP!

無筋コンクリートは耐久性に乏しく崩壊しやすい。

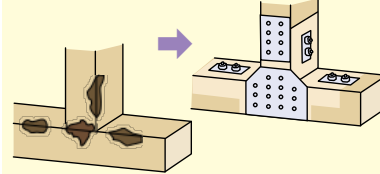
ひびの入った基礎は樹脂などを注入して補強



新たに鉄筋コンクリート造の基礎を抱き合わせます。

腐朽部分を補強

腐朽部分は新しいものと交換しよう!



劣化した部材を部分的に取り替えた場合、接合部が弱点にならないように補強しましょう。

由布市では、耐震診断・耐震改修（補強）費用の一部を補助しています。昭和56年5月以前に建てられた木造住宅で耐震化を検討される際は、右記問い合わせ先へご相談ください。

●問い合わせ先

建設課 直通電話：097-582-1273

地震が起きたらどうする？

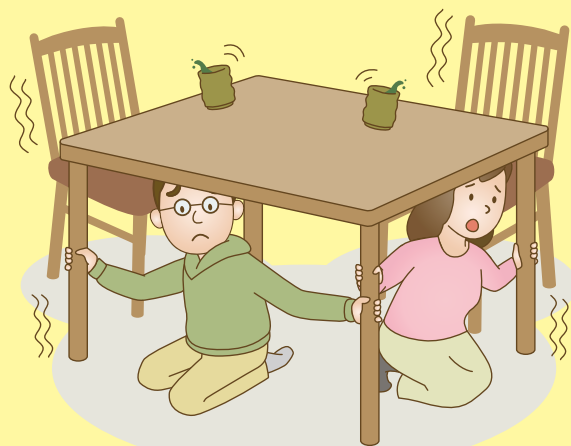
大きな地震が発生したときに、冷静に対応するのは困難です。しかし、一瞬の判断が生死を分ける場合もあります。いざというときに「あわてず、落ち着いて」行動するため、行動パターンを覚えておきましょう。

「地震発生時」の行動

地震発生

まずは身の安全を確保する

- 緊急地震速報や、大きな揺れがあったときは、まずは身の安全を最優先に行動しましょう！
- 丈夫なテーブルの下など、物が「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」空間に身を寄せ、揺れがおさまるまで様子を見ましょう！



「地震直後」の行動

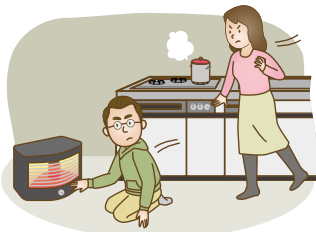
出口の確保

- ◆揺れがおさまったのを確認し、ドアや窓を開けて、必要に応じて避難ができるように出口を確保しましょう。



火元の確認と初期消火

- ◆火を使っているときは、揺れがおさまってから、あわてずに火の始末をしましょう。
- ◆出火しているときは消火します。ただし無理はせず、119番通報や周囲に助けを求めましょう。



あわてて行動するのはケガのもと

- ◆屋内では、転倒や落下した家具類、割れたガラスの破片などに注意しましょう。
- ◆瓦、窓ガラス、看板などが落ちてくる危険があるので外に飛び出さないようにしましょう。



危険箇所に近寄らない

- ◆屋外で大きな揺れを感じたら看板などの落下物がないか上を見て、ブロック塀、電柱、看板、自動販売機、建物などには近寄らないようにしましょう。



「揺れがおさまった後」の行動

状況に応じて避難する

(これまでに感じたことがないような揺れの場合)

- ◆家屋倒壊の危険があったり、近隣に大きな火災が発生したときは、避難所などに避難しましょう。
- ◆津波や土砂災害のおそれのある場合は、状況に応じてより安全な場所へ避難しましょう。



要配慮者がいる場合は

- ◆家族に、子ども、高齢者、障がいのある人など、避難に時間がかかる「要配慮者」がいる場合は、早めに避難しましょう。また、必要に応じて地域に支援を求めましょう。



正しい情報を集める

- ◆ラジオやテレビ、行政、消防、警察など信頼できる機関から発表される情報に注意し、デマなどにまどわされないように正しい情報を集めましょう。



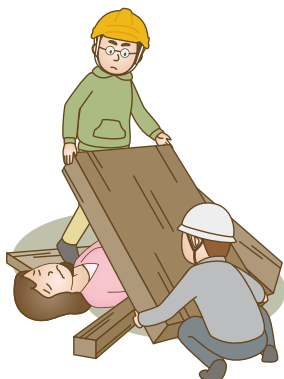
隣近所の安全を確認する

- ◆自分の家の安全が確認できたら、隣近所の安全を確認しましょう。特に高齢者世帯など要配慮者がいる家に、積極的に声をかけましょう。



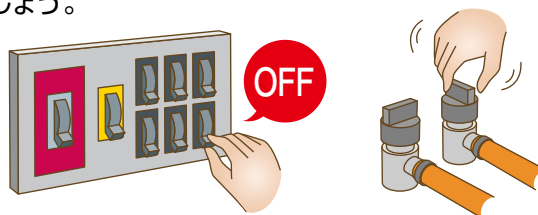
救護活動に協力する

- ◆倒壊家屋や家具の下敷きになった人などがいたら、近隣で協力して救出・救護しましょう。
- ◆行政や消防団、自主防災組織の指示に従って、安全で効率的な協力をしましょう。



避難する際のルール

- ◆火災などの二次災害を防ぐために、避難が必要になったときは、できるだけ電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉めてから避難しましょう。



! こんな場所で地震が起きたら

エレベーターの中で

- 地震時管制運転装置付きエレベーターは、自動的に最寄りの階に停止するのでそこで降りましょう。自動で停止しない場合は、すべての階のボタンを押し、停止した階で外に出ましょう。



車を運転中

- 徐々にスピードを落とし、路肩に停車しラジオ等で情報を集めましょう。
- 車を置いて避難する場合はできるだけ道路外の場所に移動しましょう。
- やむを得ず道路上に置いて避難するときは、キーはつけたままにし、ロックもしないように。徒歩で避難しましょう。

